

# 具体的なDXの取り組み



全社での取り組み



建設現場での取り組み



BIMでの取り組み



デジタル人財の育成

# 具体的なDXの取り組み

## (1)情報共有

テレビ会議システムやグループウェア導入により情報のさらなる共有、kintoneやKJ-1による情報蓄積、業務の見える化を図っていきます。



テレビ会議システム  
(最大16拠点と接続)



グループウェア



業務アプリ



原価管理システム

## (2)業務効率化

ペーパーレス化、また、建設業に特化した業務支援AIチャットを導入。建設業全般の法令や情報、当社の過去情報を登録し、社員の質問への回答や文章の作成をサポート可能にしています。



勤怠管理システム  
『就業役者』



電子請求書システム  
『Digital billder』



電子契約サービス



AIコンストシェルジュ  
『光/Hikari』

全社での取り組み

# 具体的なDXの取り組み



## (1)情報共有

現場ライブカメラを活用することにより、離れた場所からでも安全管理を行うことができ、また、本社との連携もスムーズに実施可能です。『box』の利用により協力会社との書類のやり取りを電子上で行うことが可能となり業務効率化が図られます。



現場ライブカメラ



クラウドサーバー『box』

## (2)業務効率化

### 建設現場での取り組み

ペーパーレス化を図り、各サービスと連動による効率化を狙いとしています。



電子マニフェストシステム  
『イーリバース』



竣工検査アプリ  
『LAXSY』



蔵衛門Pocket  
蔵衛門クラウド



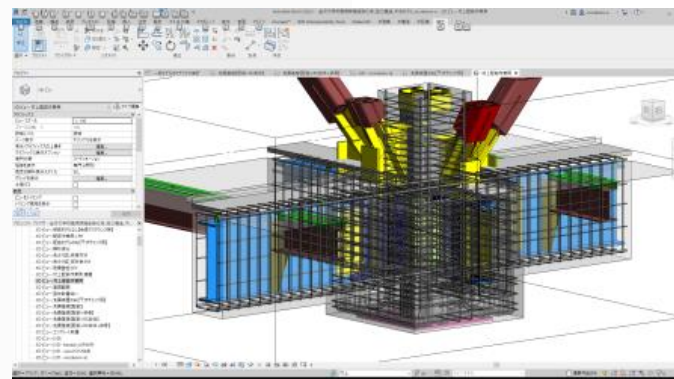
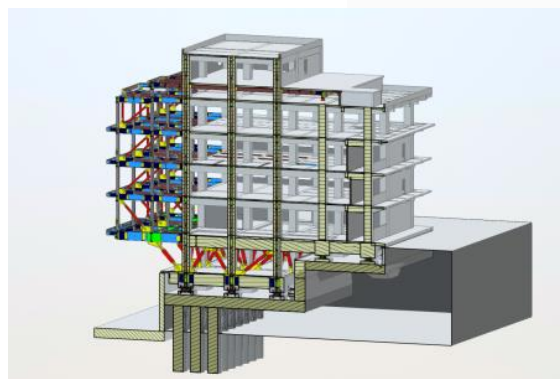
日常施工管理システム  
『Buildee』

# 具体的なDXの取り組み

BIMを活用して建設プロジェクトの効率化と品質向上を図っています。建物の設計、施工、管理に関する情報を一元化し、プロジェクト全体の効率を向上させています。設計変更が発生した場合でも、関連するすべてのデータが自動的に更新されるため、手作業での修正作業を大幅に削減できます。3Dモデルを活用することで、施主や協力会社とのイメージ共有が容易になり、プロジェクト関係者間のコミュニケーションが円滑になります。これらの取り組みにより、プロジェクトの品質向上、コスト削減、工期短縮を実現し、お客様満足度の向上に努めています。



BIMへの取り組み



**AUTODESK®**  
**BIM 360™**

# 具体的なDXの取り組み

全社的な IT スキル向上を目指し、デジタル人材の育成に注力しています。  
この取り組みの一環として、社内横断的な DX 推進プロジェクトを発足させました。  
このプロジェクトを通じて、生産性向上と働き方改革の両面から DX を推進し、  
業務プロセスのデジタル化と組織文化の変革を進めています。  
これらの取り組みにより、デジタル技術を効果的に活用できる人材を育成し、  
企業全体の DX を加速させてまいります。

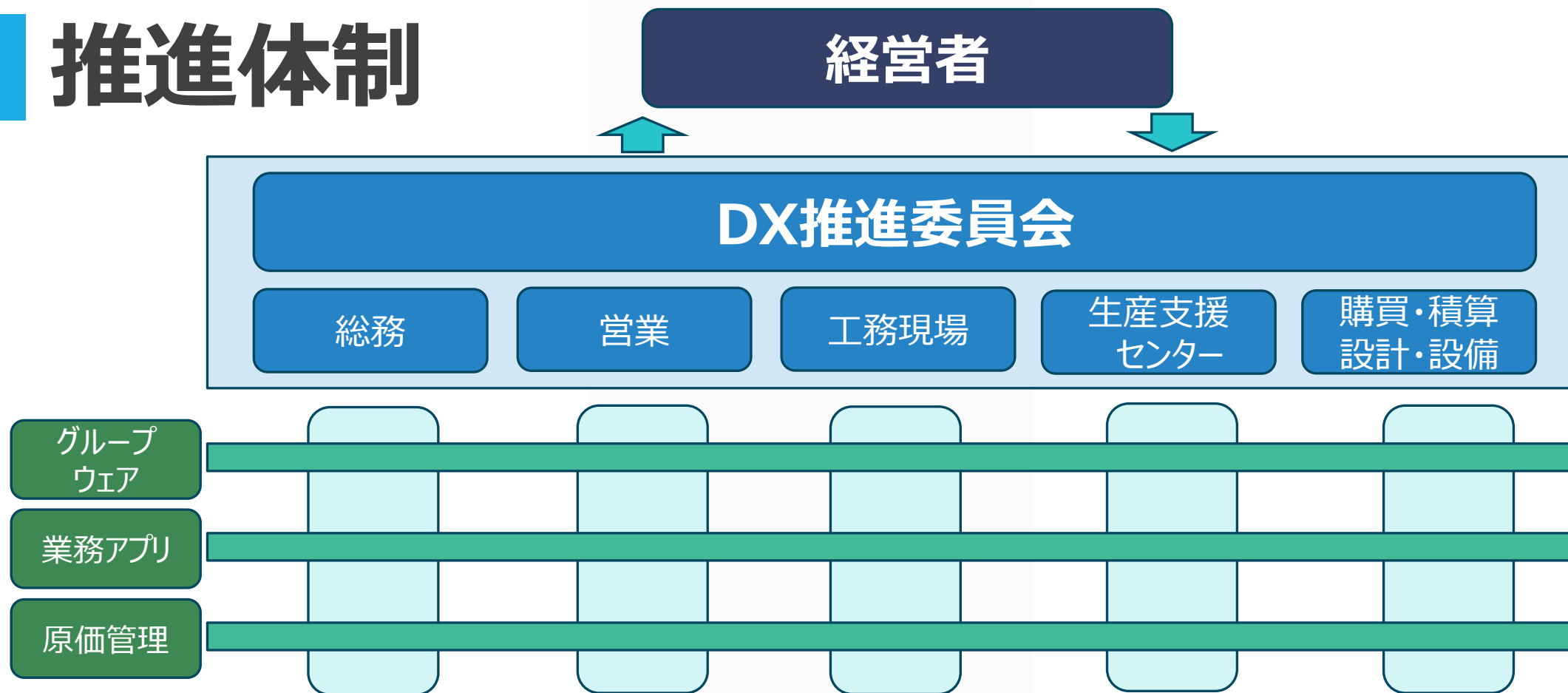


デジタル人材の育成



施工BIM勉強会の実施

# 推進体制



代表取締役社長の直轄のもと、組織横断的なDX推進委員会を設立し、全社を挙げてDXを推進しています。各部署間のシステム連携を強化し、シームレスな情報流通と業務プロセスの最適化を目指しています。この推進体制により、全社一丸となってDXに取り組み、業務改革と競争力強化を実現してまいります。

# 数値目標



全社での効率化

令和6年度（令和5年度比）

年度	実績						目標
	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
平均時間外勤務時間の削減/月次	51時間42分	46時間11分	37時間52分	32時間29分	22時間03分	17時間40分	17時間00分
印刷枚数の削減/1人当たりの年間印刷枚数	6,875	6,651	7,677	7,325	7,612	5,212	4,690

※「平均時間外勤務時間」：管理職を含むグループ全体の推移

月次で集計しDX推進委員会、経営会議で報告を実施。

KPI未達成の場合は各部より取組状況を確認し、取組における課題を整理する。



フィードバック方法